

2025 年度
自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾
麻生美容専門学校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、麻生美容専門学校の2025年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2026年 1月 31日

麻生美容専門学校

目次

I	教育理念・教育目標（育成人材像）	- 3 -
II	重点項目	- 4 -
III	基準項目 自己点検・評価	- 7 -
	基準 1 教育理念、目的、育成人材像	- 7 -
	基準 2 学校運営	- 8 -
	基準 3 教育活動	- 12 -
	基準 4 学修成果	- 17 -
	基準 5 学生支援	- 19 -
	基準 6 教育環境	- 20 -
	基準 7 学生募集	- 22 -
	基準 8 財務	- 23 -
	基準 9 法令遵守	- 24 -
	基準 10 内部質保証	- 25 -
	基準 11 社会貢献・地域貢献	- 26 -

評価結果

- 3：基準を満たしており、特筆すべき取り組みを行っている
- 2：概ね基準を満たしている
- 1：基準を満たしておらず改善が必要

I 教育理念・教育目標（育成人材像）

教育理念

技・創・信

麻生塾の教育理念を踏まえ、世界基準の美容の技術・創造性を磨き、自信・信頼など心の力を兼ね備えた美容業界のグローバルシティズンを育成する。

教育目標（育成人材像）

世界基準の美容師として活躍し続ける人材

1. 国家試験合格レベルの知識・技能の修得に加え、世界基準の技術、創造性にふれ、向上心をもって学び続ける姿勢を身につけた人材
2. 学校生活、学校行事を通じて人との良好な関わり方（感謝心・思いやり）を学び、多様な価値観を受け入れ、周囲との信頼関係を構築できる心の力を備えた人材
3. 美容師の社会的使命や職業倫理を理解し、長期的な視点でのキャリア形成により、志をもって美容業界に貢献し続ける人材

●課程修了の方針（ディプロマ・ポリシー）

本校では、教育目標となる「育成人材像」を踏まえ、以下のような能力を備えた学生に対し、卒業を認定します。

1. 美容技術力（Hand Work）
 - ・美容師国家試験課題合格レベルの知識・技術力
 - ・世界トップサロンとの連携による国際基準の技術認定（ディプロマ）を取得する力
 - ・「選択コース授業」による、メイク・ネイル・ブライダルなど付加価値となる技術力
2. 創造力（Head Work）
 - ・常に高い美容に対する意識をもち、あらゆる機会を通して感性を磨き、自らの作品を制作できる力
3. 人間力（Heart Work）
 - ・グローバルシティズン教育に基づく人間力をベースに、周囲との協働、感謝・思いやりを表現できる力

●教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

本校では、美容師養成施設指定規則および指導要領、ならびに教育目標（育成人材像）に則り、学生が体系的かつ主体的に学習できるようカリキュラムを編成し、これに従って教育を実践します。

- ① 美容師養成施設指定規則による「必修課目」、ならびに「選択必修課目」「一般課目」をとおして卒業認定に掲げる各能力を身につけることができるよう、課目ごとの到達目標を明確にし、評価する。
- ② 美容業界との産学連携により、世界基準、トップレベルの美容を体感する各種教育プログラムを展開し、感性を磨き、求められる知識・技能を認識することにより、職業観を醸成する教育を実践する。
- ③ 「社会人基礎力」の学びの視点を活用し、美容業界で活躍し続けるために必要な能力の醸成を図る。

●入学生受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本校の求める学生像は以下のとおりです。

- ① 感謝と思いやりの心を持ち、美容の仕事を通じて世の中に貢献したい人とする人
- ② 向上心を持ち、新しい知識や技術の習得に熱意をもって取り組むことができる人
- ③ 相手の立場や考え方の違いを理解し、多様な多くの仲間と切磋琢磨できる人

Ⅱ 重点項目

1. 重点項目

退学防止として能動的に授業へ参加する学校の魅力アップ
～ルールで縛るのでなく「通い続けたい学校」づくりへ～

本校の今年度の重点項目は、学生自身が本校で学ぶ目的を明確に認識することで学校に通い続け美容師になるという気持ちを醸成できるよう、学習環境を整備すること、それにより不本意な退学者を最小限にすることとしていました。

2. 取組み状況

(1)高校から専門学校へのスムーズな移行を図る新入生サポート

新入生オリエンテーションの改善(宿泊合宿の復活)

新入生同士の交流促進および学校生活を円滑にスタートさせるためのマインドセット形成を目的として、2017年を最後に実施していなかった宿泊を伴う新入生オリエンテーションを再開しました。

主なプログラム内容は以下のとおりです。

- 学校生活や学習で求められる基本動作訓練
- 美容業界経営者による講話
- クラス目標および個人目標の設定と達成に向けたプロセスの共有
- レクリエーション等を通じた交流活動

(2) 仲間意識を高め、学校の一体感を醸成する新入生と在校生との交流促進

全校スポーツ大会の開催

授業開始から約1ヶ月が経過した5月下旬に、全校生徒が参加するスポーツ大会を実施しました。大会の企画・運営は代表学生が主体となって行い、学年間対抗形式とすることで、同じ目標に向かう仲間として学年を超えた交流の機会を創出しました。

(3) 能動的な学びの場の新設

企業連携による「サロンゼミ」の創設

2025年5月より、地場企業の美容サロンと連携した正課外教育として、「サロンゼミ」(以下 サロンゼミ と称する)を開講しました。学生の関心が高い分野の「メンズカット」「韓国メイク」「アイリスト」3コースを開講し、現役スタイリストによる現場に即した技術指導を受けることで、実践的な学習環境を整えました。

(4) 学生主体の委員会活動の検討

当初は、学園祭等の行事を中心とした学生主体の委員会活動を計画していましたが、2025年度は新規開講したサロンゼミの安定的な実施を優先したため、具体的な委員会活動の立ち上げには至りませんでした。

(5) 学校満足度向上に向けたカリキュラムの見直し

2026年度に向け、昨今の学生の資質の変化や業界のニーズに対応するとともに、学生がより履修しやすく、効果的・効率的な教育体制を構築し、学生の学びやすさと学校満足度の向上を図るためにカリキュラムの検証を行いました。

3. 総括(成果と課題)

成果

1. 退学防止に向けた環境づくりの進展

宿泊を伴う新入生オリエンテーションを復活させ、交流の促進とマインドセットの強化を図りました。これにより、入学初期の不安が軽減し、教職員との関係性が早期に構築されました。また、全校スポーツ大会の実施によって新入生と在校生の学年間交流が活発になり、相談相手の確保や居場所の形成につながりました。

これらの取組により、学生が「一人ではない」と感じられる環境を整えられました。その結果、学校に安心して通い続けやすい状況が生まれ、退学防止の一助の取り組みとなりました。

さらに、合宿形式のオリエンテーションでは、短期間で学生同士および教職員との関係づくりを進めることができました。高校生活から専門学校での学びへとスムーズに移行できるよう、導入的な説明やガイダンスを行ったことで、新しい環境への適応が促され、学校生活に対する安心感や帰属意識の醸成につながりました。

2. 学びの魅力向上

サロンゼミの創設により、学生が主体的に専門技術を深める機会を提供できました。企業連携による現場感のある実践的な学びは、学生のモチベーション向上に寄与しました。また、本校で学ぶ目的をより明確に認識することにつながり、退学防止の一助となりました。

3. カリキュラム見直しによる学習環境の改善、学校満足度の向上

検証の結果、課程修了に必要な単位数が過多になっていること、授業課目の適切な構成、配置ができていないことが判明しました。そのため、2026年度は課程修了に必要な単位数を適正化することとし、それに伴い、授業課目を統廃合及び新設を図るためにカリキュラムを改定することにしました。

課題

1. 委員会活動の未実施

- 学園祭などイベント運営への参加機会が十分に提供できなかったことを踏まえ、2026年度は年度当初から委員会活動を実施できる体制を整備することが課題です。

2. 退学防止に係る取り組みの定着と評価

- 宿泊オリエンテーションやスポーツ大会など、交流促進の取り組みは単発で終わらないよう、継続的な仕組み化をする必要があります。
- サロンゼミは人気が高い一方で、参加できる学生が限定されるため、より多くの学生が魅力ある学びにアクセスできる仕組みづくりが課題です。

3. カリキュラム改定の効果検証

効果的・効率的なカリキュラム編成やキャリア教育の導入が、退学防止や満足度向上にどの程度寄与しているか、データに基づく検証が必要です。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

中項目 1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【取り組み状況】

学校法人麻生塾の教育理念は、「専門性を高め、かつ人間性・人格の成長を図ること」と定めています。また、麻生美容専門学校では、教育理念として「技・創・心」を掲げています。本校は、「志」の高い「美容業界で活躍し続ける人材」の育成を目指しています。

これらの法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的および育成人材像については、ホームページ、学生便覧、学校紹介パンフレット、オープンキャンパス、入学予定者対象の説明会、高校教員対象の説明会、学内企業説明会などを通じて学内外に明示し、広く周知しています。また、講師会や学校関係者評価委員会でも確認し、定期的に点検を実施しています。特に新入生に対しては、これらの内容を掲載した学生便覧を全員に配布し、オリエンテーションやホームルームを通じて指導しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	2
1-1-2	各学科の教育目標（育成人材像）を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	3

=====

基準 2 学校運営

=====

中項目 2-1

学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか。

【取り組み状況】

本校では、教育理念に基づき運営方針を策定し、説明用の資料を作成しています。

この資料は、毎年年初に開催するキックオフミーティングで全教職員に共有しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	3

中項目 2-2

事業計画を作成し、執行しているか。

【取り組み状況】

本校では、年初に年度の運営方針を定め、その方針に基づき事業計画を策定し、全教職員へ周知しています。

さらに、事業計画の執行状況は、定期的に教職員会議などで確認しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	2
2-2-2	事業計画は適正に執行されているか。	2

中項目 2-3

運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。

【取り組み状況】

法人において明文化された運営組織および意思決定機関の仕組みのもとで運営されています。理事長・常務理事・理事・本部長・監事が参加する常任理事会が適宜開催され、組織運営上の重要課題について合議がなされています。また、校長代行が参加する部門長会議等、各階層別・目的別の会議体が設計されており、これらに参画し、法人方針の共有と学校運営への反映を行っています。会議は計画的に開催され、有効に機能しています。

麻生美容専門学校においては毎月教育の到達度及びクラス運営等テーマにした教職員会議と学校運営をテーマとした戦略会議を開催し、各目標への進捗状況等共有し適時意思決定を行っています。

本校には事務部長と教務事務が配置されており、学生の就職支援や予算の管理等を行っています。事務職員は、業務の効率化に繋がる DX の推進に向けた研修へ適時参加しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	2
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	2
2-3-3	運営会議（教職員会議・教員会議等）が定期的に行われているか。	3
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	2
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	2

中項目 2-4

人事・給与に関する制度を確立しているか。

【取り組み状況】

法人で整備された雇用区分ごとの就業規則および各種人事諸規程、労使協定に基づき運営しています。これらは法令を遵守して整備されています。また、法人の運営方針や労働関連法令の改正に応じて規程の見直し・改定が行われており、その内容を教職員へ周知し、適切な運用に努めています。

法人で定められた給与規程(または一部雇用形態については就業規則)に基づき、法令を遵守した給与制度のもとで運用しています。これらの規程は法人内共有フォルダ等を通じて教職員に公開されています。本校においても透明性の確保に努めています。

法人で整備された昇給・昇格制度を含む人事制度に基づき運営しています。制度内容は教職員に公開されています。また、法人の基本方針を踏まえつつ、社会情勢や物価動向等を勘案し制度の見直しが適宜行われており、その運用において公平性・妥当性の確保に努めています。

法人で定められた採用規程に基づき、適切な募集・採用を行っています。採用にあたっては、当該部署の責任者が採用稟議を起案し、求める人物像を明確にしたうえで選考を実施しています。また、関係部門と連携した採用体制のもと、面接から内定判断まで規程に則って運用しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	2
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	2
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	2
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	2

中項目 2-5

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【取り組み状況】

情報システム化により、業務を効率的に遂行しています。学生情報や教職員の勤怠管理を含めた情報システム化を進めており、学校法人麻生塾独自の情報管理システム「麻生塾システム」を活用して、広報、入試、学籍、教務、就職など学校運営に必要な情報を一元管理しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-5-1	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	2

=====
基準 3 教育活動
=====

中項目3-1

教育理念、教育目標（育成人材像）に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【取り組み状況】

教育目標（育成人材像）に基づき策定されたディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを明示し、学校構成員（教職員および学生等）に周知するとともに、社会に公表しています。教育課程は、これらのポリシーに基づいて編成・実施されています。

学校構成員への周知方法として、学生には各クラス内で教員による読み合わせを行い、常勤教職員には、定期的な教職員会議及び非常勤講師には講師会にて周知しています。また、当校のホームページ上で広く社会に公表しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-1-1	教育目標（育成人材像）に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員（教職員及び学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	2
3-1-2	教育目標（育成人材像）に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員及び学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	2

中項目3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【取り組み状況】

- ① 教育課程の編成・実施方針に基づき、業界のニーズを踏まえた実践的かつ専門的な教育内容を提供できるよう、体系的に教育課程を編成しています。
専攻分野に関する企業・関係施設・業界団体との連携を積極的に進め、特に全世界65か国へ展開する「トニー&ガイ」のカットシステムを導入し、時代のトレンドに沿った技術を身に付けられる教育内容を学生へ提供しています。また、「トニー&ガイ」をはじめとしたトップスタイリストとの交流を通じて、学生が業界理解を深めるとともに、実践的な学びを得られる環境を整えています。これらの取り組みにより、受講した学生がディプロマを取得するなど、職業教育としての質の向上にも寄与しています。
さらに、2023年度からはフランス・パリ発祥の世界的ヘアブランド「モッズヘア」の教育プログラムを2年生の選択授業に導入し、国際基準に沿った高度な専門技術の修得機会を拡充しています。
- ② 職業実践専門課程の認定要件に基づき、教育課程編成委員会にて業界ニーズ・社会ニーズの把握に努めています。そこで得た情報を基に、校長を中心にカリキュラム会議を実施し、教育課程編成委員会の意見も踏まえてカリキュラムを編成しています。カリキュラム・ポリシーに基づき、実践的な職業教育の視点に立った教育内容の定期的な見直しを行い、教育の充実を図っています。
- ③ 授業に関しては、一部適正なシラバスおよびコマシラバスの提供が出来ていなかったことが判明し是正をおこないました。
- ④ 専攻分野における実践的な職業教育として、実務実習を実施し、学生たちは実際に職場体験を行いました
- ⑤ キャリア育成についても、学校法人麻生塾オリジナルの課目を履修に加え、日々の学生指導とともに、社会的・職業的自立を促しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	2
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	3

3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	2
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	2
3-2-5	授業及び実習に関するシラバスは作成しているか。	2
3-2-6	シラバスに基づいてコマシラバスを作成しているか。	2
3-2-7	授業はシラバス及びコマシラバスに基づいて実施しているか。	2
3-2-8	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	2
3-2-9	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	2

中項目 3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【取り組み状況】

教育内容および授業の質の維持・向上を目的として、前期・後期に各 1 回、全学年の学生を対象とした授業アンケートを実施しています。

授業アンケートの集計結果は、担当教員全員に共有し、校長代行および主任が中心となり、各教員と面談を行っています。面談では、授業内容やクラス運営に関する学生からの評価をもとに具体的なフィードバックを行い、改善点や今後の指導方法について協議し、授業内容の質の向上および学生指導の改善を促しています。また、非常勤講師に対しても同様に授業アンケート結果のフィードバックを行い、必要に応じて授業内容や指導方法について改善要望を行っています。状況により、再度の授業アンケート実施や講師の交代など、教育の質を維持・向上させるための対応を行っています。

このように、本校では学生による評価を客観的な指標として活用し、継続的な評価と改善のサイクルを構築しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-3-1	授業評価体制を整備しているか。	2
3-3-2	学生によるアンケート等で定期的に授業評価を実施しているか。	3
3-3-3	授業科目の目標に照らし、教育内容・授業方法が適切であるか確認しているか。	2
3-3-4	授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。	3
3-3-5	授業評価の結果をもとに、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	2

中項目3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【取り組み状況】

成績評価、単位認定、卒業判定に関する基準や卒業要件等は規程等により明確にしており、それらに基づき成績評価、単位認定、卒業判定を行っています。

また、これらの規程はホームページで広く公開するとともに、学生便覧に記載して学生や保護者等に周知しています。

各課目の評価項目と評価方法についてもシラバス等を通じて学生全員に周知し、定められた成績評価基準に基づき、適切に成績評価を実施しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	2
3-4-2	学生や保護者等に、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準、進級要件、卒業要件を適切に明示しているか。	2
3-4-3	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	2

中項目3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【取り組み状況】

専修学校設置基準をはじめとする関連法令に基づいて教員要件および定員に対する法令上必要な人員を適切に配置しています。専門性と経験を備えた教授能力のある教員を確保しており、質の高い非常勤講師を含む教員組織体制を整備しています。

各学年にはリーダーを配置し、適切な助言や指導が行えるよう組織体制を構築しています。さらに、教員の専門性や指導力を維持し、資質・能力を向上させるために、企業と連携し、トニー&ガイ認定講師資格更新研修やモッズヘア認定講師研修等を受講しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	2
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	2
3-5-3	教員に必要な知識・技能を身に付け、資質・能力の向上を図るための取り組みを行っているか。	2
3-5-4	教員に対して、専攻分野に係る関連分野の企業等と連携して、実務に関する研修・研究に組織的・計画的に取り組んでいるか。	2
3-5-5	教員に対して、企業等と連携して、指導力・教授力を習得、向上するための取り組みを行っているか。	2

=====
基準 4 学修成果
=====

中項目 4-1

学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【取り組み状況】

本校では、学修成果の可視化および教育活動の改善を目的として、2025年4月のキックオフ会議において、成績、資格・検定取得状況、退学者数等に関する具体的な目標を設定し、教職員間で情報を共有する体制を構築しています。

各クラスにおける取り組み状況や成果については、毎月作成されるクラス運営報告書を通じて、就職率、資格取得率、退学状況等を定期的に把握しています。これらの情報は、学校法人麻生塾経営企画グループ主催の経営会議および教職員会議において報告・共有され、達成状況の振り返りと課題の抽出を継続的に行っています。

その成果の一つとして、2025年3月実施の美容師国家試験における合格率は、2024年3月実施分と比較して大幅に向上しました。さらに、2026年3月の国家試験に向けては、過去の出題傾向の分析を行い、その結果を教職員間で共有することで、授業内容や試験対策の改善を進めています。

退学率の低減については、今年度の重点項目に定めた項目の進捗状況及び比較的退学に繋がりがやすい欠席が多い学生情報等を毎月の教職員会議にて共有し対応を協議しました。

このように、本校では学修成果に関する目標設定と進捗管理を組織的に行い、その達成状況を教育活動の改善に活用する仕組みを構築しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取り組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	2
4-1-2	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取り組みを行っているか。	2

4-1-3	資格取得率、公務員合格率及びコンテスト・コンペ入選数の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。	3
4-1-4	資格取得等に関する指導体制及びカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	2

中項目4-2

卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

【取り組み状況】

本校では、卒業生の卒業後の動向や就業状況を、主として就職先美容サロンとの継続的なコミュニケーションを通じて把握しています。各就職先からは、卒業生の技術力や職業意識、現場での適応状況について意見を聴取し、卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を確認しています。

具体的には、卒業生が勤務するサロンにおいて評価を受け、在校生への技術指導を担当する事例や、本校主催のヘアショーにおいて卒業生がサロン代表として技術を披露し、帯同するサロンオーナーと教職員が意見交換を行うなど、実践的な交流を通じて卒業生の活躍状況や企業評価を把握しています。

これらの情報は、教育内容や指導方法の見直しに活用し、現場ニーズを踏まえた教育活動の改善につなげています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-2-1	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	2

=====
基準 5 学生支援
=====

中項目 5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【取り組み状況】

1. 就職・進路支援

担任および就職担当者が全学生との面談を実施し、希望する職種や地域を把握しています。また、就職関連の書類作成や面接練習を行い、個別支援を強化しています。

2. 学生相談体制

担任を中心に学生の状況を確認し、必要に応じて保護者等を含めた適切な支援方法を提案しています。

3. 経済的支援

担任と学校法人麻生塾キャリア支援グループが連携して状況を確認し、保護者等を含めて適切な方法を提案しています。特待生制度、進級支援制度、学費分割納入制度など、多様な支援制度を提供しています。

4. 健康管理体制

健康診断を実施し、病欠時には病名や状況を確認する体制を整えています。

5. 生活環境の支援

学生寮の紹介や、必要な学生に対するWi-Fi（登録商標）やPCの貸出を行っています。

6. 保護者等との連携

出席状況や成績、体調など学生の状況を保護者等に随時連絡し、密なコミュニケーションを図っています。

7. 社会人学生（通信課程）への支援

Microsoft Teams（製品名）を活用したチャットでの連絡・相談を実施するとともに、動画コンテンツを利用可能な環境を整備しています。また、通信課程は専門実践教育訓練講座の指定を受けています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
5-1-1	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	2
5-1-2	学生相談に関する体制を整備しているか。	2
5-1-3	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	2

5-1-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	2
5-1-5	学生の生活環境への支援を行っているか。	2
5-1-6	保護者等との連携を適切に行っているか。	2
5-1-7	社会人学生への支援体制を整備しているか。※	2

※社会人学生とは、学生のうち、職に就いている者（給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者）をいう。夜間学科及び通信課程を設定している学校が評価対象。

=====

基準 6 教育環境

=====

中項目 6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【取り組み状況】

施設、設備については設置基準を遵守し、かつ教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育に必要なものを整備しており、適正に管理しています。設備整備に関しては業務推進グループと連携し、年度毎に教室見直し及び設備の補充・修繕を行い環境の維持に努めています。

麻生専門学校グループ福岡キャンパスの共用施設として、図書室・図書コーナーを設置し、職員配置や開館時間、閲覧環境および情報検索設備を整備しています。また、図書管理台帳を作成し、規程に基づき図書の登録・点検・廃棄等の管理を行っています。これらを通じて、図書館サービスが適切に機能していることを確認しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	2
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	2
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	2

中項目6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【取り組み状況】

教育環境の安全性を確保するため、学外での実務実習、通学時および学内における安全管理体制の整備に取り組んでいます。

学内の防災対策については、関連法令に基づき消防設備の定期点検を実施するとともに、火災などの非常時を想定した避難訓練を行っています。これにより、学生および教職員の防災意識の向上と、緊急時の適切な行動につながる体制の強化を図っています。

実務実習に参加する全学生を対象に学生災害傷害保険へ加入し、学内外での事故に備えた補償体制を整えています。また、実務実習中にトラブルやアクシデントが発生した際には、担当者が受け入れ先に直接訪問し、関係者との協議を通じて速やかな問題解決と再発防止に努めています。

これらの仕組みにより、実習施設における教育環境の質を安定的に確保し、適切な実習運営を支えています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
6-2-1	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	2
6-2-2	定期的に防災訓練を実施しているか。	2
6-2-3	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	2

=====
基準 7 学生募集
=====

中項目 7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【取り組み状況】

アドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針)を策定し、募集要項に記載すると共に、麻生美容専門学校のホームページにて公表して、受験者に周知しています。また、学生便覧にも記載し、学生および教職員に周知しています。

就職実績、国家試験結果、卒業生の活躍等の教育成果は、パンフレットやホームページに正確に記載し、社会に公表しています。

学生募集については学校法人麻生塾入学相談グループ(以下入学相談グループという。)を中心に、教務や就職支援グループも加わって、アドミッション・ポリシー(入学者の受け入れ方針)に基づいた、オープンキャンパス等の募集活動を適切に行っています。

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を実施しています。入学願書の受付・入力から選抜試験運営までの業務体制を整備し、毎年度、事前に実施体制の検証を行っています。入学選抜業務は「麻生塾システム」により一元管理し、総務・保守部門と連携しながら、募集要項に基づき適切に運用しています。試験問題、実施教室、備品、運営担当者配置等についても計画的に準備を行っています。願書受付についてはマニュアルを整備し、統一的な運用を徹底しています。試験当日の運営においても役割別マニュアルを整備し、事前打合せにより認識統一を図ることで、公正性・正確性を確保しています。

校納金については、適切な授業料や入学金等の設定を行っています。教材費については、カリキュラムに合致した教材等を教務で協議し、妥当性、透明性を確認して決定しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表しているか。	2
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	2
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	2
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	2
7-1-5	校納金(学生納付金)等は妥当なものとなっているか。	2

=====
基準 8 財務
=====

中項目 8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【取り組み状況】

財務基盤は安定しており、貸借対照表や資金収支計算書にみる各種残高および基本金積み上げ額は、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えているといえます。

学校の予算は、事業計画に基づき適切に策定しています。予算計画は月次で管理し適正に執行されています。

私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領しています。

ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を公開しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	2
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	2
8-1-3	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	2
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	2

=====
基準 9 法令遵守
=====

中項目 9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【取り組み状況】

学校法人麻生塾では、法務人事グループや教育推進グループなどの関係部署と連携し、学校教育法、私立学校法、美容師養成施設指定規則、専修学校設置基準などの法令に基づいて学校運営を行っています。教務室内には『理容師・美容師関係法令通知集』を備え、いつでも確認できる体制を整えています。さらに、法令に基づき、個人情報保護、ハラスメント防止、危機管理に関する学内諸規程を整備し、適切に運用しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	2
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	2

=====
基準10 内部質保証
=====

中項目10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【取り組み状況】

本校では、学校教育および学校運営について毎年、自己点検・評価を実施しています。自己点検は全教職員で評価を行い、それを基に学校全体で改善・向上に向けた取り組みを進めています。また、自己点検・評価活動の担当委員を選任し、委員を中心として自己点検・評価、学校関係者評価、そして結果の公表までの各段階を確実に実施しています。

具体的には、職業実践専門課程の認定要件に基づき、学校関係者評価委員会を年1回、教育課程編成委員会を年2回開催し、有識者や関連企業関係者から定期的に意見を収集しています。それらをもとに、教育活動や学校運営について検証を行い、指摘事項があれば改善に取り組み、その結果を改善報告書としてまとめています。さらに、自己点検・評価結果および学校関係者評価結果は、学校のホームページで公表しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、組織的に自己点検・評価を実施しているか。	2
10-1-2	自己点検・評価の結果に基づき、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組みを組織的に、積極的かつ継続的に行っているか。	2
10-1-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施しているか。	2
10-1-4	学校関係者評価結果をもとに改善の取組みを行っているか。	2
10-1-5	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	2

=====

基準 1 1 社会貢献・地域貢献

=====

中項目 1 1 - 1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【取り組み状況】

GCB教育（グローバルシティズン・ベーシック教育、麻生塾独自のキャリア教育）の方針に基づき、学校の教育資源や施設を活用して毎年、社会貢献・地域貢献活動を奨励しています。

具体的な学生のボランティア活動として2025年10月には、地域の公民館でのメイクアップ講座に、教員と学生がボランティアとして参加し、地域の方々と交流しました。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 1 - 1 - 1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	2
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	2